

研修カリキュラム表

事業所名：研究・研修センター長岡

平成29年度

科目の内容等				
科目の細目	時間	「修了時の評価ポイント」番号	実施方法	
1 職務の理解（6時間）				
介護の職務の理解	3	—	介護保険サービス(居宅・施設)、保険外サービスの内容と、ケアプランに基づくケア、他職種連携、社会資源などについて、ビデオなどを活用して説明する。	評価なし
職場の研修とキャリアパス	3	—	介護職の資格、仕事の内容、現場で行われる研修体系などを実際の事例に基づいて討議し、理解させる。	
2 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）				
人権と尊厳を支える介護	3	2-②	人権、人権擁護、プライバシー、虐待・身体拘束防止など、要介護者に必要な視点を事例をもとに説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
介護の理念	3	2-①	要介護者になっても、ノーマライゼーション・当たり前の暮らしの実現のためには何が必要かをグループワークを通して考え、理解させる。	
自立に向けた介護	3	2-①	自立・介護予防の考え方、人間の基本的欲求と支援、重度化防止の実態などをビデオなどを活用して理解させる。	
3 介護の基本（8時間）				
介護職の役割、専門性と多職種との連携	2	3-① 3-②	生活支援の中での介護職の役割が、チームの中でどのように行われているか、実際の事例に基づいて討議し、理解させる。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
介護職の職業倫理	2	3-③	要介護者と関わる専門職はどのような倫理を持つべきなのかを、実際の事例をグループワークを通して考え、理解させる。	
介護における安全の確保とリスクマネジメント	2	3-④	現場で起こりうる事故をどのように分析して、予防していくのかを実際の事例に基づいて討議し、理解させる。	
感染症対策の基礎知識	2	3-④ 3-⑤	介護職自身の健康管理、感染症についての知識、正しい対応方法を説明する。	
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）				
介護保険制度	3	4-① 4-② 4-③	介護保険制度の背景・目的・動向、基本的仕組みを法令を用いて説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
看護と介護の連携	2	4-⑤	介護と看護の連携がどうあるべきなのかをグループワークを通して考える。また、たんの吸引・経管栄養、その他の医療行為について、介護と看護の連携が、実際どのように行われているか説明する。	
リハビリテーションの理念	2	4-④ 4-⑤	要介護者に必要なリハビリテーションの視点を、実際の事例に基づいて討議し、理解させる。	
障害福祉制度	2	4-② 4-④	障害者自立支援制度の仕組み、障害の概念、障害者の生活の実際を、事例を用いて説明する。	
5 介護におけるコミュニケーション技術（6時間）				
介護におけるコミュニケーション	3	5-① 5-② 5-③	介護職に必要なコミュニケーションの意義・技術、共感・受容・傾聴の姿勢を、ロールプレイ演習を通して理解させる。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
チームアプローチと共感的理解	3	5-④	家族、多職種とのコミュニケーションの実際を知り、記録・会議・ケアプランに具体的にどう繋がるのかを説明する。	
6 老化の理解（6時間）				
老化に伴うこころとからだの変化と日常	3	6-①	加齢・老化による身体的・精神的・社会的な変化について、実際の事例に基づいて討議し、理解させる。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
高齢者と健康	3	6-②	高齢者に多い疾病の症状と治療、生活上の留意点などをビデオなどを活用して説明する。	
7 認知症の理解（6時間）				
認知症状の理解	2	7-① 7-② 7-③	認知症ケアの理念、様々な疾患と認知症状、中核症状と行動障害の理解をビデオなどを活用して説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
認知症の人の理解	2	7-④ 7-⑤ 7-⑥ 7-⑦	認知症の人の心理とコミュニケーション、健康管理と環境整備、若年性認知症の課題など実際の事例に基づいて討議し、理解させる。	
認知症高齢者の家族支援	2	7-⑦ 7-⑧	認知症の人が地域で暮らす意義、その家族や地域の支援がどのように行われているか、実際の事例に基づいて討議し、理解させる。	

8 障害の理解 (3 時間)				
障害の理解	3	8-① 8-②	障害の概念・、ICFの考え方、障害の内容・特徴について学び、その支援方法について実際の事例に基づいて討議し、理解させる。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
9 こころとからだのしくみと生活支援技術 (75 時間)				
■ 基本知識の学習 12 時間				
介護の基本的な考え方	3	9-②	要介護度や健康状態の変化に沿った基本介護の原則(理論・法令含む)を理解し、状態に合わせた介護・介護予防の方法について、グループワークを通して考え、理解させる。	各単元ごとの終了時に、確認の小テストを行い評価する。
高齢者のこころのしくみ	3	9-④	人の記憶や意欲の構造を理解するとともに、高齢期のこころが身体に及ぼす影響を踏まえた支援を説明する。	
からだのしくみ①	3	9-⑤	人体の構造や機能(主に、身体的な働きを中心に)を理解するとともに、高齢期の行動の特徴を踏まえた支援を説明する。	
からだのしくみ②	3	9-⑤	人体の構造や機能(主に、神経系の仕組みを中心に)を理解するとともに、高齢期の行動の特徴を踏まえた支援を説明する。	
■ 生活支援技術の学習 51 時間				
生活と家事	3	9-① 9-④ 9-⑤ 9-⑥	要介護度や健康状態の変化に合わせた生活支援、家事、炊事などのIADLの支援が実際にどのように行われているのかを事例を用いて説明する。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
住環境と福祉用具	3	9-③	要介護度や健康状態の変化に合わせた生活上での環境の整備と、有効な福祉用具の活用方法について、実際の事例を用いて説明する。	
整容	6	9-⑦	整容介助全般について理解させる。2時間は介護技術に関する講義を行い、残り4時間で実技演習を行う。(実技演習は、講師が示す事例にもとづいて実施)	講義内容は、研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。実技演習内容は、実演により介護技術の習得度をチェック表に基づき評価する。
移動・移乗介助	9	9-⑧	移動・移乗介助全般について理解させる。2時間は介護技術に関する講義を行い、残り7時間で実技演習を行う。(実技演習は、講師が示す事例にもとづいて実施)	
食事介助と口腔ケア	6	9-⑨	食事介助・口腔ケア全般について理解させる。2時間は介護技術に関する講義を行い、残り4時間で実技演習を行う。(実技演習は、講師が示す事例にもとづいて実施)	
入浴介助	6	9-⑩	入浴介助全般について理解させる。2時間は介護技術に関する講義を行い、残り4時間で実技演習を行う。(実技演習は、講師が示す事例にもとづいて実施)	
排泄介助	6	9-⑪	排泄介助全般について理解させる。2時間は介護技術に関する講義を行い、残り4時間で実技演習を行う。(実技演習は、講師が示す事例にもとづいて実施)	
睡眠介助と寝具の整え方	6	9-⑫	睡眠介助全般について理解させる。2時間は介護技術に関する講義を行い、残り4時間で実技演習を行う。(実技演習は、講師が示す事例にもとづいて実施)	
終末ケア	6	9-⑬	死生観、終末ケアの考え方、本人・家族支援、チームケアなどが実際にどのように行われているのか、また事例に基づいて討議し、理解させる。	
■ 生活支援技術演習 12 時間				
在宅サービスにおける介護過程	6	9-① 9-② 9-③ 9-④ 9-⑤	在宅生活における介護過程が、どのようなサービスを活用しながら、本人の介護・介護予防、尊厳ある生活、家族の支援などが展開されているのか。チームアプローチの実際を幾つかの事例に基づいて討議し、理解させる。	研修の全科目履修後、筆記試験による修了評価において評価する。
施設サービスにおける介護過程	6	9-① 9-② 9-③ 9-④ 9-⑤	施設生活における介護過程が、どのようなサービスを活用しながら、本人の介護・介護予防、尊厳ある生活、家族の支援などが展開されているのか。チームアプローチの実際を幾つかの事例に基づいて討議し、理解させる。	
10 振り返り (4 時間)				
振り返り	4	—	介護サービスに従事する場合の基本的態度や、研修で身につけた知識の確認、さらにこれから現場でどのように学習の継続を行っていくのかを、グループワークを通して考え、確認させる。	評価なし
合 計	132 時間			